



昆虫の誕生

フアーブルの昆虫記に次のような一節がある。

とつくり蜂（ウーメネス・アメデイ）はその幼虫の食物として青虫をとるが、その巣の中に1匹の幼虫に対してあてがつてある青虫の数は、5匹の時もあれば、10匹の時もある。そしてこの場合、獲物の大きさは全く同じなのだ。そうしてみると、糧食の量は1対2の相違となる。片方の幼虫には2人分あてがいが、他方の幼虫には1人分しかあてがわれないなんて、こんなご馳走の不平等はどうしたわけか。

この疑問を解く鍵が1つある。とつくり蜂の成虫は、雄が雌よりも小さい。目方からいつても容積からいつても雄は雌のやつと半分しかない。で、雄を完成にみちびくための全糧食は半減することができる。そこでどつさ

り糧食のつめ込まれた巣はみんな雌に属し、他のけちくさくあてがわれているのはすべて雄に属する。

けれども卵は糧食のたくわえができ上つたときにはじめてその糧食の上に生みつけられる。

で、われわれはいや応なしにこんな結論に到達する。すなわち母はやがて産もうとする卵の性を前もつて知っており、知っておればこそ、彼女は未来の幼虫の食欲の度によって、それぞれ戸棚を充たしてやることが出来るのだ。

人間の場合はどうだろうか。賢明な母親はやがて誕生する子供の性を見分けることが出来るのだろうか。

人間ともあろうものが、たかがとつくり蜂の持つている知恵にも及ばないのだろうか。

茨城県人口動態（昭和33年1月～6月）

月	別	出生	死亡	自然増加	死産	乳児死亡	新生児死亡	婚姻	離婚
1	月	(15) 4,590	(15) 1,798	(14) 2,792	(14) 388	(9) 243	(8) 142	(17) 1,455	(28) 89
2	月	3,561	1,568	1,993	279	218	129	1,377	101
3	月	3,822	1,720	2,102	372	204	121	1,960	105
4	月	3,370	1,517	1,853	331	190	114	1,910	124
5	月	3,093	1,294	1,799	302	121	74	1,818	122
6	月	(15) 2,873	(13) 1,235	(17) 1,638	(29) 211	(12) 105	(7) 64	(22) 1,124	(66) 83

注 人口動態毎月概数、厚生省統計調査部

1月と6月の（ ）内の数字は、全国での本県の順位を示す。